

1

1 転校

2 遊泳

3 商売

4 秒

5 始業

6 寒空

2

1 エ

2 I バ

II オ

3

I エ

II ア

III

ウ

(3 完答)

3

7 (記述題)

8 ウ

9

I 修学

II 行か

(9 完答)

5 わたしとの

6

X

イ

Y

ア

Z

イ

(6 完答)

3

1 ア

4

イ

1

ウ

4

2

植物の

う

こと

(2 完答)

2

7

が 奈

気 保

に 子

入 や

ら カ

な オ

い リ

と 同

じ 班

に なる

(同意可)

8

肉食と

9 I

2

II

2

6

I

果実

II

動物質

7

火

(6 完答)

3

栄養

4 A

イ

B

エ

C

ア

5

確保

配点	
1・2・4・3	各2点×13=26点
2	7点
その他	各4点×17=68点
〈計〉100点	

1 この機会に同音異義語である「転向」もおさえておこう。「転向」とは、方向や立場を変えることである。  
2 「遊」の「しんにょう」以外の部分を「旅」にしたり、「泳」の「永」の部分を「氷」にしたりしないようにしよう。  
3 「商」の内側を「古」にしないよう気をつけよう。「敵」や「適」の内側部分と区別して覚えておこう。  
4 「秒」は「のぎへん」部分を「きへん」としないよう気をつけよう。  
5 「始業」とは、その日の業務や授業を始めることである。  
6 「寒空」とは、寒々とした冬の空、寒さが身にしみる冬の天候のことである。「寒」の横棒の本数に気をつけて書こう。

2 1 線①の直後の一文の「そのこと」が「修学旅行の班決め」を指していることから、「修学旅行の班決め」を今日することを忘れていたかのような「そうだった」という発言が「うそだ」ということになる。

2 線②の「だとしたら」は、直前の「修学旅行」と「夢」のことでゆれた結果、「夢」を優先することにしたことを受けてのものである。「夢」の内容は文章後半に書かれていた。「修学旅行」よりも「バレエのオーディション」を優先したのである。

3 Iは直後の一文で「と答えれば坂巻さんは安心するのだと思う」とあることから、「不安」だとわかる。IIは坂巻さんに一方的にべつの人と班を作るように言われて「はーっ? と加賀さんは顔をゆがませて目を細めた」からの流れである。IIIは二行後から説明されている「わたし」の内心から考えよう。

4 A「われ先に」は、自分が先になろうと争うさま。B「胸をはる」は、得意になるようす。C「きよとん」は、意外だったためにとっさに理解できず、驚きととまどいでただ目を見開いているさま。D「未練たらしい」とは、いかにも思い切れないさま。「未練がましい」とも言う。

5 「坂巻さんの行動をあらわすことば」を答えることに注意しよう。『わたし』とどうしても同じ班になりたい」ということは、「わたし」の機嫌を取ったり、周りの子を「わたし」に寄せつけないようにしたりしているのではないかと考えてさがそう。

6 X・Y・Zともに直後の一文から考えられる。物語文では誰の発言なのかはつきり書かれていないことも多いので、場面をイメージし、誰の発言なのかを考えながら読み進めることが大切である。  
7 「四人班だから、町田さんとあたしと、奈保子とカオリで決まりだよね」「修学旅行、同じ班になろうっていったよね」という坂巻さんの発言から、自分と町田さん（「わたし」）が同じ班になるのは当然だと考えていることが読み取れる。その一方で、朝の場面で「もしかして、奈保子たちとじゃないほうがいい?」とほかの二人について町田さんの意見を尊重しようとするようすが見られることもおさえておこう。班決めときの町田さんの「わたしぬきで決めてくれる」という発言で「やっぱり奈保子たちとじゃないほうがいいんだ」と思ったということである。——線④のあとの「坂巻さん、べつに加賀さんたちがどうとやってことじゃないよ」「じゃあなんで」という会話からも考えられる。

8 急に「修学旅行に行かない」と言われ、大きく動揺している坂巻さんのようすが行動や発言から読み取れる。——線⑤の「は」としたように息を飲み」から、勢いあまって思いがけない発言をしてしまった自分自身に驚いていることがわかる。このあとの坂巻さんの「ちがうの。町田さん、ごめん」という意味でいったんじやなくて」という発言と合わせて考えよう。

9 線⑥をふくむ発言は「わたし」の発言なので、「わたし」がこの場面で伝えたかったことを答えればよい。

3 1 本文の第二段落・第三段落に「反芻獣」のそれぞれの胃の役割がくわしく書かれているので、ここと照らし合わせて考えよう。  
2 線①の直前に「もう一つの重要なこと」とあるので、ここより前に「重要なこと」の一つめが書かれているとわかる。直前の段落にある「この反芻について二つのことが重要です。一つは」という並列の目印に注目しながら通読しよう。

2 ②の直前の一文から、ウシやシカが葉から摂っているものがあるのとわかる。また、ここよりあとに「肉食獣」と「対比的に考えることができる」とあるので、肉から十分摂れるものが何か、と考えて答えを導き出すこともできる。

4 (A)の前では「動物質の食物」のメリットが、あとではデメリットが書かれているので、(A)には逆接のはたらきを持つ「しかし」がはいる。(B)の前後には、「動物質の食物」のデメリットが書かれているので、(B)には添加のはたらきを持つ「しかも」がはいる。(C)の前には、あとのライオンが「いつもお腹をすかせている理由が書かれているので、(C)には順接のはたらきを持つ「だから」がはいる。

5 「つまり」ではじまっている③をふくむ一文が、ここまで書かれている「動物質の食物の特徴」をまとめている。また、問3とも関連するが、「草食獣」と「肉食獣」とを「対比的に考えることができる」ので、「草食獣」が困らないことは何か、と考えて答えを導き出すこともできる。

6 線④をふくむ段落から「ヒトの食性」の説明になっているので、ここよりあとから「ヒト」が食べていたものをさがそう。  
⑥をふくむ一文の直後が「例えばまたそのため」と進んでいくので、この具体例に注目しよう。「ワラビ」を「ゆでる」、「動物の死体」を「加熱する」とあるので、共通して用いられる「火」が答えとなる。

8 通読する際に話題の移り変わりを意識しながら読み進めていこう。◎の文が「次に」となっていることから、ここより前で「肉食獣」と並列の関係のものについて説明されていたであろうこと、また、「肉食獣」についての説明がはじまるところにもどさなくてはいけないことの両面から考えよう。

9 I 「肉食獣」についての説明の最後に「すべてでヒトよりも優れています」とあるが、これは「走る力、狩りの組織力、捕える力など」といった「狩り」に関することにおいてである。また、「狩りの成功率は低い」とあった。  
II 「反芻」について重要なことの一つめの説明に「ウシの前歯は下顎だけにあり、上顎は歯茎だけです」とあった。